

『看護教育』 バックナンバーのご案内

(1部) 定価：本体 1,400 円＋税
年間購読 好評受付中！
電子版もお選びいただけます。

Vol.55 No.11

2014 年 11 月
特集

基礎と臨床がともに学ぶ場をつくる 自治体が協力するケースを中心に

臨地実習を行う以上、学校と臨床現場でのコミュニケーションは欠かせません。しかし、よい看護師を育てたいという目標は同じであって、立場の違いからその進め方は常にさまざまな問題をはらんだまま、今に至っています。また、卒業生の能力評価の統一や基礎・臨床がそれぞれ抱える課題の情報共有も十分とはいえない状況かと思えます。今回は、基礎と臨床がともに学ぶ場をつくり、そこで複数の学校、複数の臨床現場がそのつながりを深める関係づくりについて取り上げます。特に、自治体という大きなくくりのなかで、基礎と臨床が意思疎通を図ることにより、実習とその後の就職にとってもよい影響が生じているという結果は、今後の合同研修の推進を加速してくれるでしょう。学校と病院一対一の関係を深化することも重要ですが、学校や病院が横のつながりをもてるという意味で、このような試みには大いに意義があると考えます。1つの学校や病院でできないことも、スケールメリットを生むことで実現できる可能性もあります。ぜひとも、他の自治体でも今回のような試みがスタートできることを期待しています。

- 【愛知県の試み】自治体による養成所・病院、看護技術ジョイント研修開催の経緯 村瀬裕子
- 【愛知県の試み】看護基礎教育と新人看護職員研修をつなぐ養成所・病院、看護技術ジョイント研修 小野由季子／高口みさき／村瀬裕子
看護教員としてジョイント研修に参加して 鈴木さおり
- 【神奈川県】自治体の立場から見たユニフィケーションシステムの概要と今後の展開 藤澤なお子
- 【神奈川県】県立看護専門学校学校のユニフィケーション 矢島ちあき／ハツ橋のぞみ
- 【東京都の試み】都立看護専門学校が運営する学校、臨床共同のワークショップ 内糸ちえ子



Vol.55 No.10

2014 年 10 月
特集

論文執筆のススメ 実例から学ぶ良い論文の書き方

どんな世界でも、よりよくするために、研究は欠かせないものです。看護専門学校の先生には、看護研究がその役割とはされておきませんが、これまでの授業を向上させるために、授業研究など、教員力向上のために研究的な視点はやはり欠かせません。ただ、研究や、新しい方略を実践されるだけでは、やはりもったいないとも思うのです。今回の特集は、「論文執筆のススメ 実例から学ぶ良い論文の書き方」です。論文執筆のルールやポイントなどとともに、実践的な執筆、指導、取り組んだ動機についてご紹介します。もちろん、書くこと、まとめることは、業務外の多くの時間が必要でしょう。しかし、先生が取り組まれた研究は、きっと他の先生方も参考にしたい内容です。研究や実践を論文として発表していただくことで、自分の所属する機関だけでなく、業界全体の刺激となります。あなたの宝物を、ぜひ広く、同じ道を歩まれている先生方にお伝えください。

- 論文執筆のプロセスとポイント 大西麻未
- 論文執筆実践講座：「女子看護大学生における母乳および母乳育児に関する理解度と実習における母乳育児支援の学習体験意図の関連」
初心者雑誌投稿（指導を受けた立場から） 坂元有沙
読者に一度で理解してもらえ論文作成の指導（指導者側の立場から） 入山茂美
- 論文執筆実践講座：「夜間の緊急時対応および医療チームの連携のイメージ化を図るための視覚教材の作成と効果」
これからも共育者として（指導を受けた立場から） 金子真由美
実践者ならではの研究を目指して（指導者側の立場から） 三島真由美
- 論文書き直し実践講座（査読を受けて変えたこと）
実践報告 小林由香
「広島市教育委員会からアドバイザーを招いての公開授業」 小村由香
- 論文書き直し実践講座（査読を受けて変えたこと）
看護教育研究 平良由香利
「学生がクリティカルケア看護の独自性を捉えた場面に関する検討」



【2014年9月号(Vol.55 No.9)】

求める学生確保のための方策
面接をめぐる課題を中心に

【2014年6月号(Vol.55 No.6)】

学生から看護師へのホップ！
ステップ！を支える教育

【2014年8月号(Vol.55 No.8)】

学習の「質」を高める
パフォーマンス評価

【2014年5月号(Vol.55 No.5)】

ピアの力を信じよう
学生同士で教え合うしくみの活用

【2014年7月号(Vol.55 No.7)】

精神看護教育に
改めて向き合う

【2014年4月号(Vol.55 No.4)】

「おかしいな」と
思ったときの学生指導

バックナンバーのご注文・在庫照会について

- 2012 年 10 月号 (Vol. 53, No.10) 以前の号は、東亜ブック (TEL.03-3985-4701, FAX 03-3985-4703, <http://www.toabook.com/>)
- 2012 年 11 月号 (Vol. 53, No.11) 以降の号は、医学書院販売部 (TEL.03-3817-5659) にお願います。